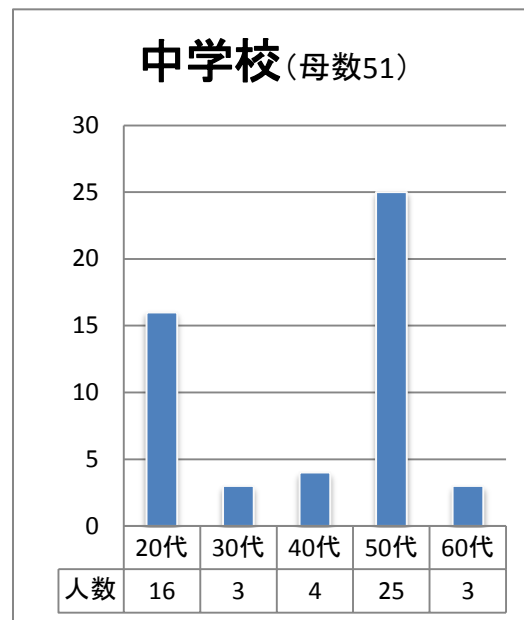
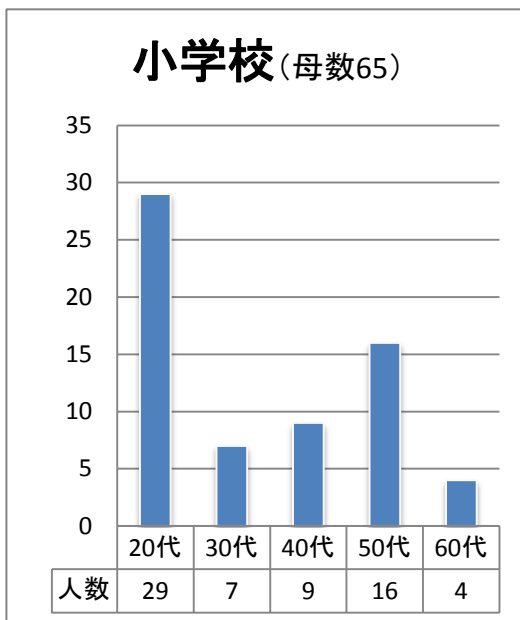
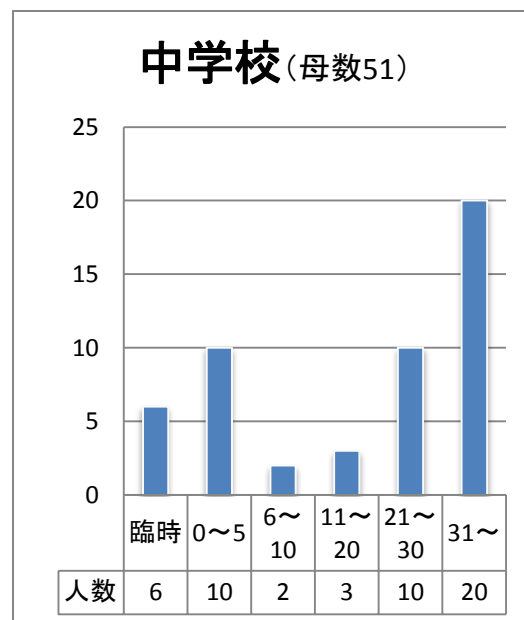
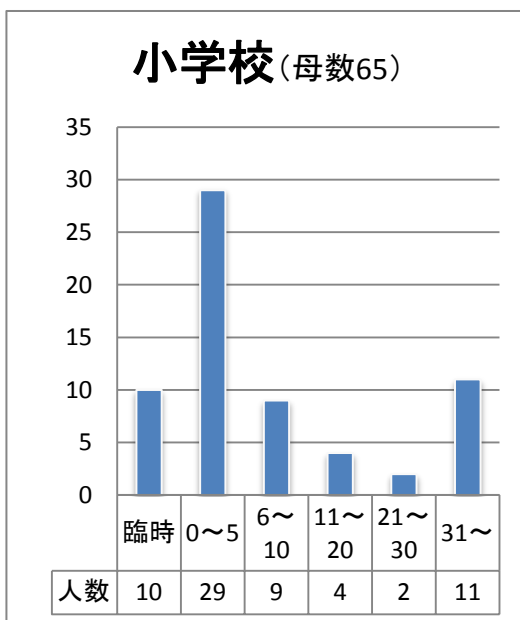


1 大磯町立学校教員の年代別構成



- ・小学校では20代の教員が4割強を占め、過半数の教員が20代と30代である。
- ・中学校では50代の教員が約5割を占め、今後順次退職していくため、何年か後には小学校と同じような状況になることが予測される。
- ・小学校、中学校ともに、30～40代の年齢層の教員の割合が少ない。

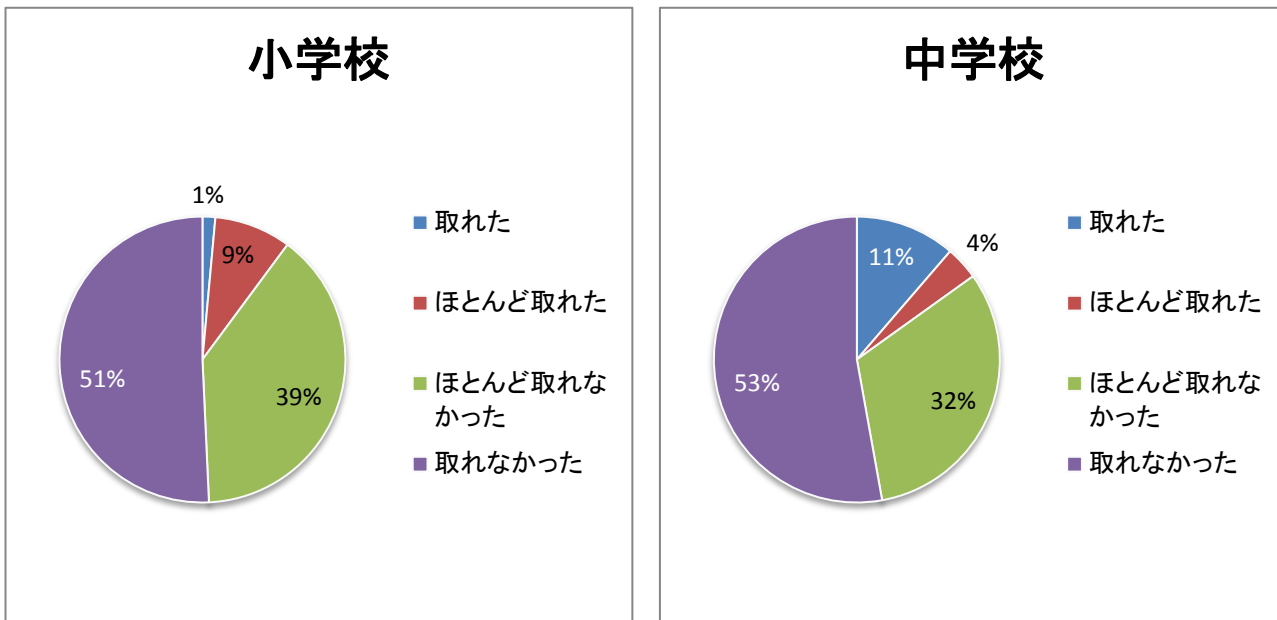
2 大磯町立学校教員の教職経験年数別構成



- ・小学校では教職経験10年以下と臨時的任用の教員が全体の3/4を占め、約半数の教員が採用から5年以下である。
- ・中学校では約6割の教員が教職経験21年以上である。
- ・小学校、中学校ともに、教職経験11年から20年の教員の割合が極端に少ない。

3 教職員の休憩時間(平成27年12月大磯町立学校教職員安全衛生委員会調査)

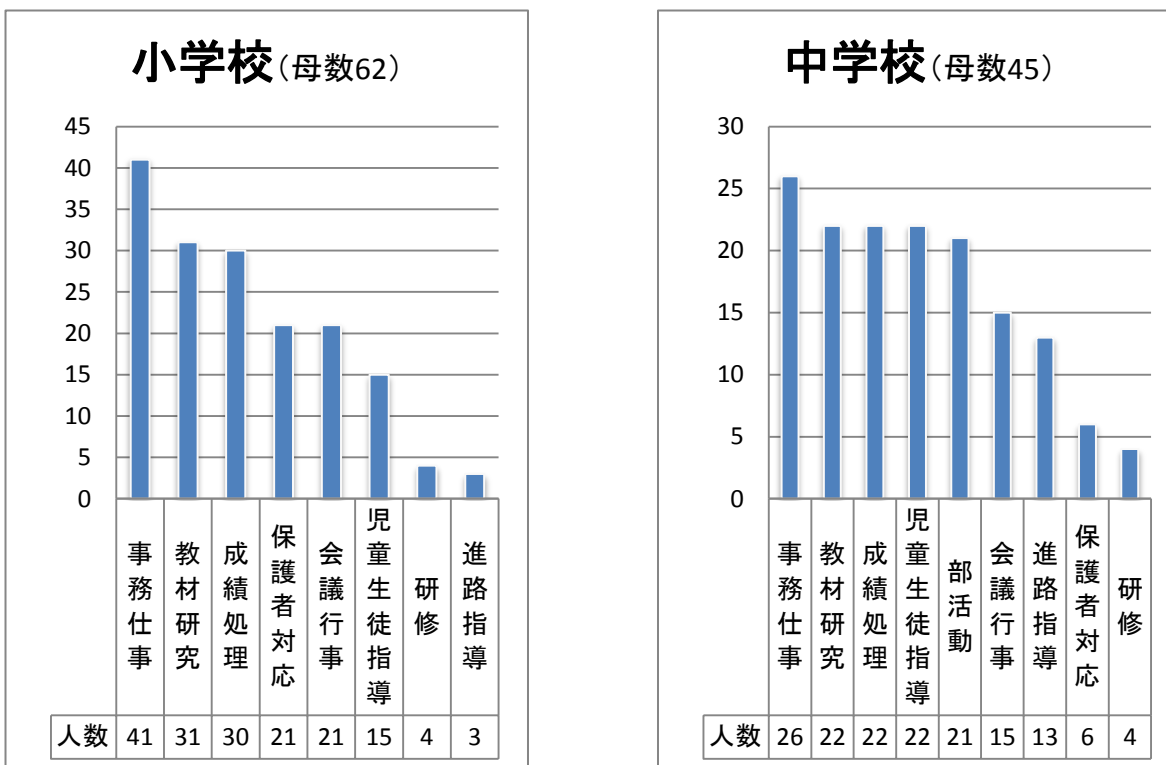
【①取得状況】



・1日の勤務時間の中で休憩時間を全く取れなかった教職員が小・中学校ともに約半数であり、ほとんど取れなかったとする教職員を含めると中学校で85%、小学校で90%となる。

・児童・生徒が在籍する時間はもとより、放課後も部活動指導や会議、打合せ等のため、ほとんど休憩していない実態がうかがえる。

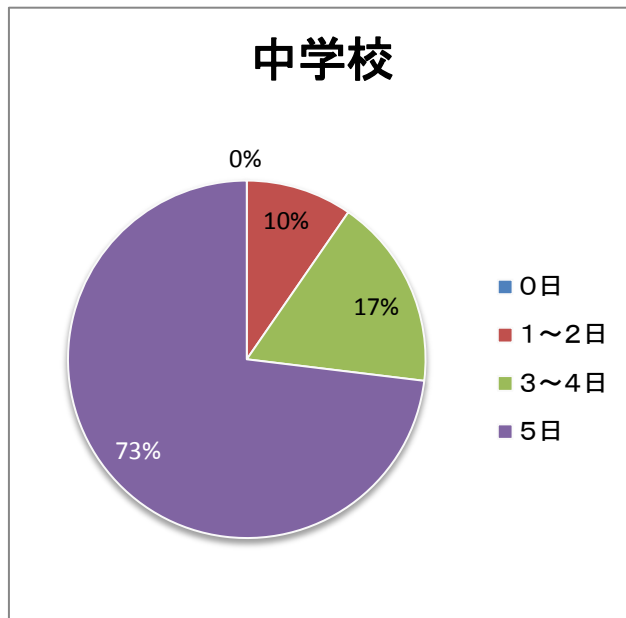
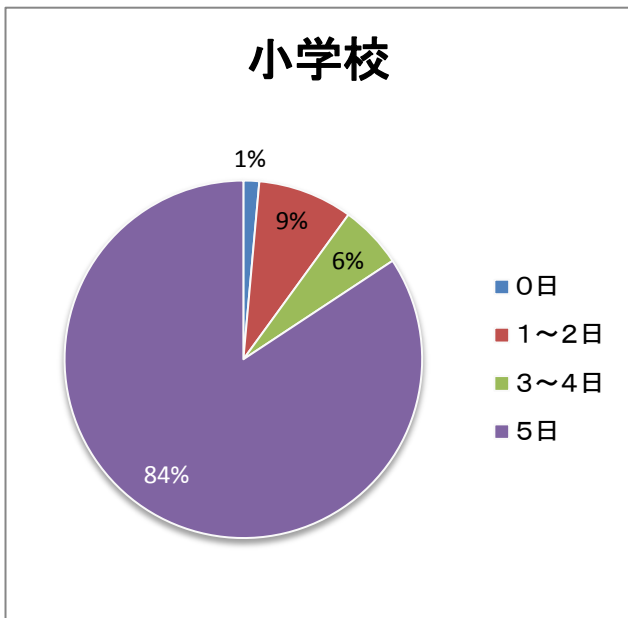
【②取得できない理由】



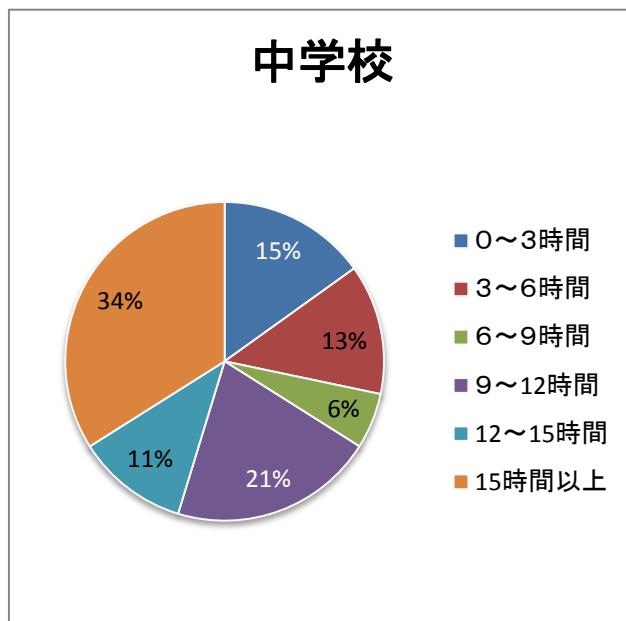
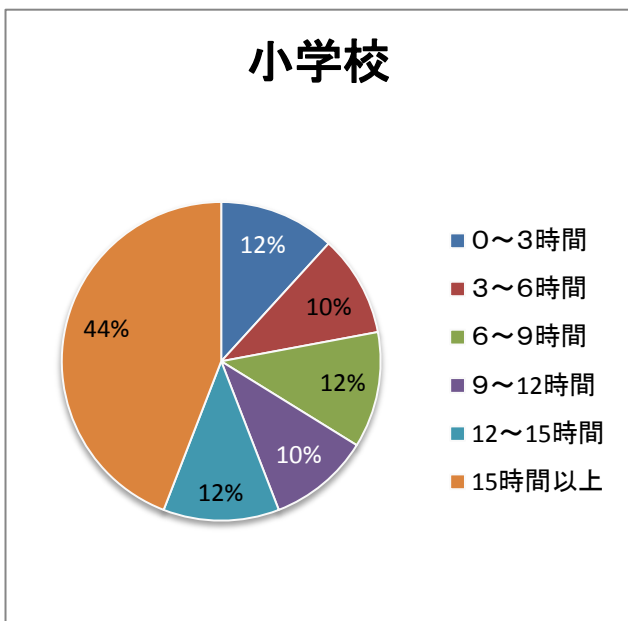
・休憩が取れない理由のベスト3は、小・中学校ともに、事務仕事、教材研究(授業準備)、成績処理である。続いて多いのは、小学校では保護者対応、会議行事、中学校では生徒指導、部活動となっている。

4 教職員の時間外勤務(平成27年12月大磯町立学校教職員安全衛生委員会調査)

【①1週間の時間外勤務日数】

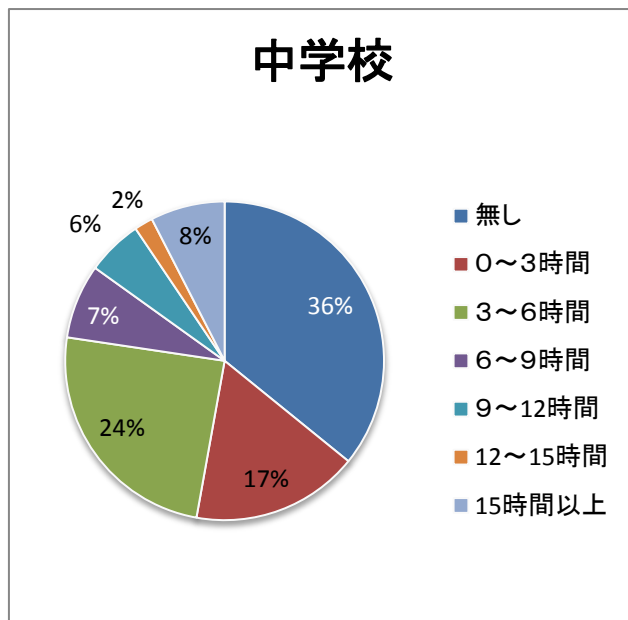
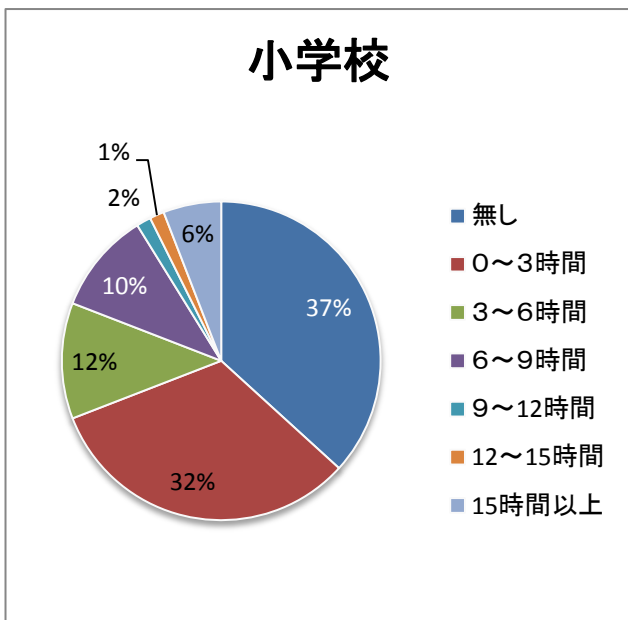


【②1週間の時間外勤務時間数(土・日曜日を除く)】



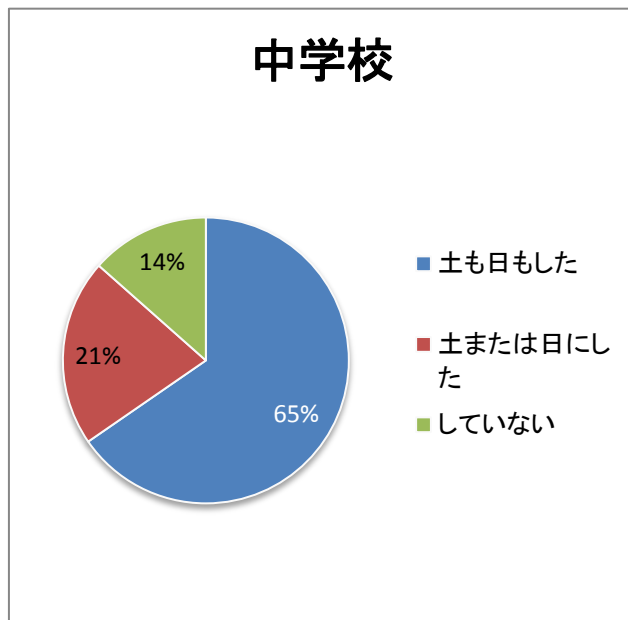
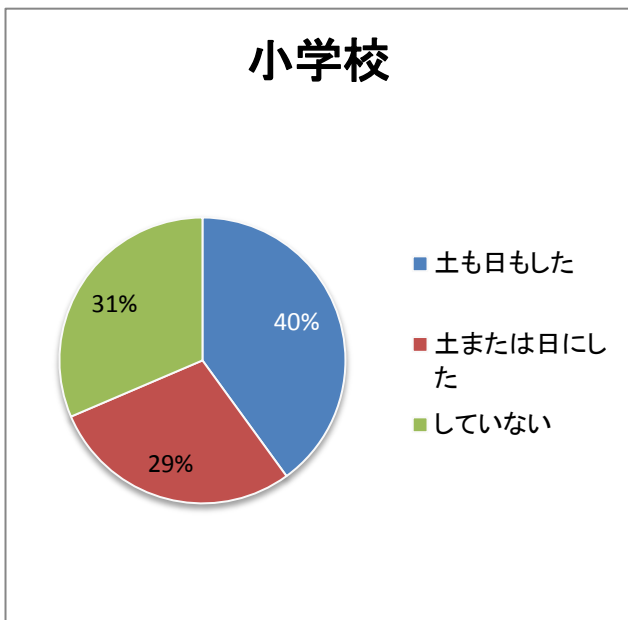
- ・多くの教職員は、毎日時間外勤務をしており、9割の教職員が週に3日以上、時間外勤務をしている。
- ・1週間あたりの時間外勤務時間数は、個人によりばらつきがあるが、15時間以上(1月では60時間以上と想定される)とする教職員が小学校で44%、中学校で34%に上る。
- ・時間外勤務時間数が6時間未満の教職員の多くは、学級担任をしていない教職員である。

【③持ち帰り仕事】



・小・中学校ともに、6割以上の教職員が家で持ち帰り仕事をしている。

【④土・日曜日の仕事】



・小学校で40%、中学校で65%の教職員が、土曜日と日曜日の2日間とも仕事をしている。

・週末にまったく仕事をしなかったのは、小学校で31%、中学校で14%に過ぎない。

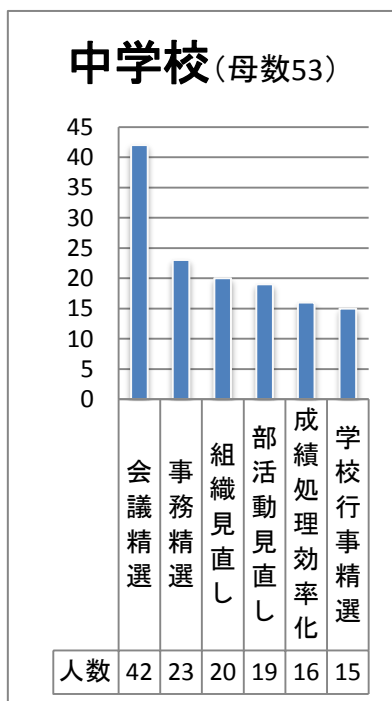
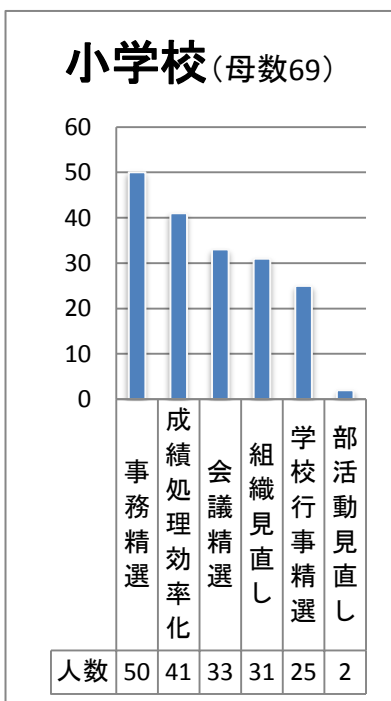
※ 「3 教職員の休憩時間」及び「4 教職員の時間外勤務」のデータは、平成27年12月に大磯町立学校教職員安全衛生委員会が実施した「超過勤務・休憩時間等についての実態調査」の結果を活用した。各学校で11月30日から12月14日の期間中、1週間を定めて教職員に調査を実施した。

※大磯町立学校教職員安全衛生委員会は、労働安全衛生法に基づき、教職員の安全及び健康を確保するとともに、快適な職場環境の形成を促進するため設置されている。

5 「超過勤務・休憩時間等についての実態調査」に記入された教職員の声

- ・勤務時間終了後の会議や打合せが日常となっている。
- ・自分自身の病気や家族の介護等の理由で長期の休暇を取得したり、休職したりしたときに、代替りの先生がすぐに決まらないこともあり、他の教員に負担が生じる。
- ・残業をしないと、絶対に仕事が終わらない。
- ・発達障害的な児童が増え、学級や学年の担任、教育支援員だけでは対応しきれず、全教職員で協力して対応している。休み時間も含め、児童が登校し、下校するまで、児童を見守り、指導している状態である。当然、休憩時間は取れない。
- ・もともと学級担任は勤務時間内に終わる仕事量ではない。
- ・個人情報管理が言われるようになってから、持って帰れなくなった仕事が増え、学校で仕事をするようになった。
- ・具合が悪くても、病院に行く時間がない。
- ・プライベートな時間がもてない。
- ・成績処理期間は、休日に出勤して仕事をするのが当たり前のようになってしまっている気がする。
- ・教材研究、授業準備は、勤務時間外にしている。
- ・放課後までトイレに行く時間もないほど忙しい。
- ・調子が悪くても、代わってもらえる先生もいないので休めない。
- ・出張に行っても、その日に帰ってきて夜遅くまで仕事をするようになる。
- ・毎日5～7時間の超過勤務だった。
- ・この勤務状態では、誰がいつ倒れてもおかしくない。
- ・教材研究の時間は全くなく、楽しい授業づくりを深められない。本当に時間が足りない。
- ・土・日は毎週ほとんど休みなくやっている。子どものためという理由になると、なかなか休むことができない。
- ・部活動は指導（技術面で）できない部活動の顧問をしているので、非常に負担を感じている。

6 時間外勤務を減らすために教職員が必要だと考えていること



〔その他の意見〕

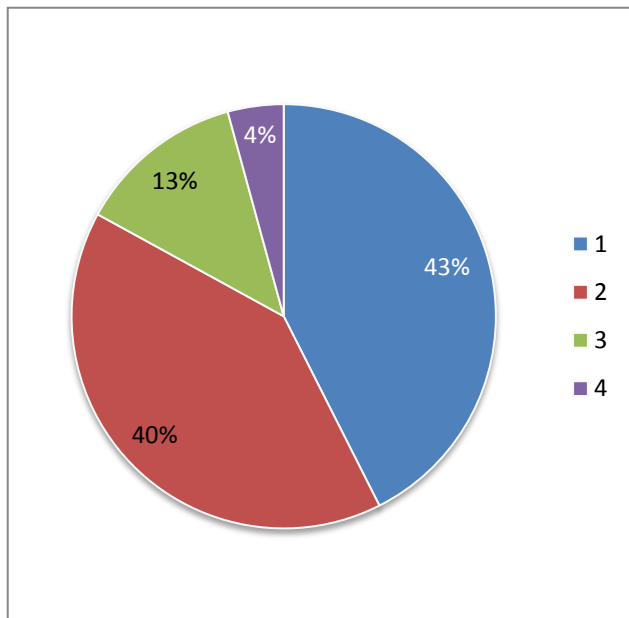
- ・教職員を増やす。
- ・担当授業時間数を減らす。
- ・仕事の効率を上げる。
- ・学級の児童数を35人以下にする。
- ・勤務時間内に仕事をする時間を確保できるようにする。
(生徒を早く下校させるなど)

7 中学校部活動顧問の状況

【①教員数と開設されている部数】

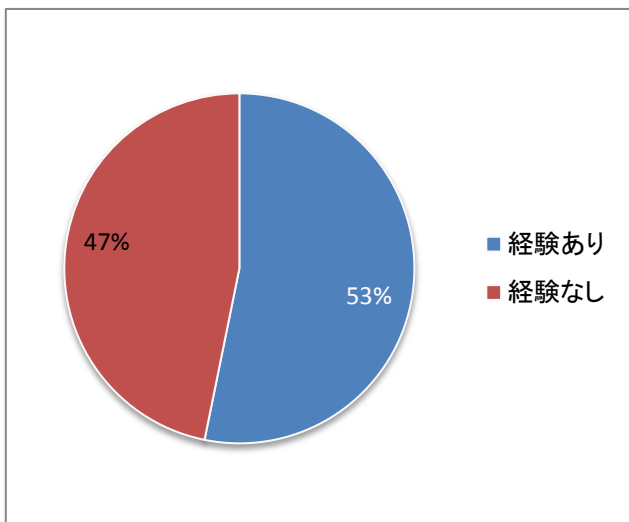
	教員数	部数	1部当たり教員数
大磯中学校	24	21	1.142857143
国府中学校	22	18	1.222222222
大磯町全体	46	39	1.179487179
(参考)伊勢原A中	34	18	1.888888889
(参考)H元年大磯中	33	20	1.65

【②一人の教員が顧問を務める部数】



- ・半数以上の教員が複数の部活動の顧問を務めている。
- ・伊勢原市立A中学校と比較すると、大磯町では教員数のわりに開設している部の数が多いことが分かる。
- ・平成元年と平成28年の大磯中学校のデータ比較では、生徒数・学級数の減により教員が9名減っているにもかかわらず、開設している部数は1増となっている。

【③顧問の競技等経験の有無】



- ・顧問を務める教員が担当する部について、自身に競技等の経験や専門性があるのは約半数で、残りの半数は専門外でありながら顧問を務め、指導している。専門外であっても審判や大会役員、協会の仕事などをしなければならず、肉体的にも精神的にも負担が大きくなる。

8 小学校における課外活動の状況

【大磯小学校】

○吹奏楽部と合唱部があり、始業前や土曜日に主に活動している。吹奏楽部は全教員が2人ずつ交替で休業日に勤務し、指導は地域指導者が中心になって行っている。合唱部は6名の教員が担当してい

【国府小学校】

○金管と弦楽の音楽クラブがあり、始業前や土曜日に主に活動している。コンクール前には、日曜日に活動することもある。金管は4名、弦楽は3名の教員が担当している。